

花のお江戸ライフ

浮世絵にみる江戸っ子スタイル

令和5年
7月8日(土)～8月27日(日)
※新型コロナウイルスの影響で変更の場合があります。

開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 月曜日(ただし7月17日は開館し、7月18日は休館)
観覧料 一般 1,000(800)円
大学生・神戸市外在住の65歳以上 500(400)円
高校生以下・神戸市内在住の65歳以上 無料

※()内は有料入館者30名以上の団体料金。※神戸ゆかりの美術館、小磯記念美術館の当日入館券(半券)をお持ちの方は割引が受けられます。※学生の方は、学生証、生徒手帳などをご提示ください。※65歳以上の方は、年齢とご住所が確認できるものをご提示ください。

主催:神戸ファッション美術館、神戸新聞社、毎日新聞社
後援:サンテレビジョン、ラジオ関西
展示協力:大阪樟蔭女子大学

K 神戸ファッション美術館
KOBÉ FASHION MUSEUM

※用図頁(三代徳田)(今風化粧鏡 1口鏡)大判絵巻 文政(1818,30)中巻(部分)、初代喜多川歌麿(名所風景美人十二冊 結髪)大判絵巻 享和展(1801,03)1頁(部分)

特別展

「花のお江戸ライフ—浮世絵にみる江戸っ子スタイル—」

2023 7.8(土)～8.27(日)

企画概要

浮世絵は17世紀後半に始まり、明治期にいたるまで広く庶民に支持された江戸時代を代表する芸術でした。初期は美人画、役者絵が中心でしたが、歌麿や写楽の活躍で知られる寛政期（18世紀後半）に最初のピークを迎えました。

文化文政期（19世紀初頭）に入ると江戸の人口は100万都市と言われるまでに拡大し、文化が成熟するなかで、庶民の関心を引くように浮世絵にも様々な主題が現れました。例えば旅行ブームを背景にして生まれた風景画をはじめ、旅、食、趣味といった現代の私達の関心事と重なる主題が登場するのもこの時期でした。

本展は、当時の江戸っ子が夢中になった様々なブームや日常の暮らしに寄り添った娯楽の数々（旅行・メイクアップ・ペット・グルメ・ガーデニング等）をキーワードにして、後期浮世絵画壇を代表する喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重をはじめ、歌川豊国、国貞などの浮世絵を展示します。また当時の料理を再現した食品サンプルや、江戸の暮らしのトリビアを紹介するパネルなどを通じて、江戸っ子のライフスタイルをひもときます。

展示構成

I. 旅行く富士とお城は定番です

II. 江戸っ子のメイクアップ術

III. 動物大好きペットブーム

IV. 江戸のソウルフードとグルメ

V. 粋なガーデンニング

VI. 季節の彩

VII. 肉筆画



歌川国芳《池の金魚とねこ》大判錦絵三枚続
嘉永4年(1851)頃(部分)

主な

展示作品



歌川国芳《池の金魚とねこ》大判錦絵三枚続 嘉永4年(1851)頃



歌川国貞(三代豊国)《今風化粧鏡 口紅》
大判錦絵 文政(1818-30)中期



初代歌川広重《東海道五拾三次之内 庄野 白雨》大判錦絵
天保4年(1833)頃



初代歌川豊国《富士額花の行列》大判錦絵五枚続 文化(1804-18)中期

展示作品

主な



月岡芳年《風俗三十二相 むまさう 嘉永年間女郎の風俗》
大判錦絵 明治 21 年(1888)



初代喜多川歌麿《名所風景美人十二相 結髪》
大判錦絵 享和期(1801-03)頃



初代歌川広重《両国納涼大花火》大判錦絵三枚続 嘉永 2～4 年(1849-51)頃

入館にあたってのお願い

- ・ 咳、発熱など体調不良の症状がある方は、ご入館をお控えください
- ・ 館内が混雑している際は、マスクの着用を推奨いたします
- ・ 咳エチケットをお守りください
- ・ 手指消毒にご協力ください
- ・ 入館時の体温測定にご協力ください
- ・ 館内ではお静かにご観覧ください

ご理解とご協力をお願いいたします

同時開催 ドレスコレクション展

「おしゃれなデイ・ドレス 身も心も踊った！ 1940～60年代のドレスたち」



展示風景「アメリカン・スタイル」

デイ・アンサンブル
ピエール・カルダン 1966年頃デイ・ドレス
イヴ・サンローラン 1965年

20世紀初頭から大きく変化したモードは、社会の情勢とともに時々の流行のスタイルを作りながら現在に至っています。本展では、その中でも第2次大戦後の復興を経てオートクチュールからプレタポルテへ、そしてよりカジュアルな大衆消費の時代へ軽やかに変化を遂げた1960年代までを中心に、日中のおしゃれなドレスの数々を収蔵品の中からご紹介します。ファッションの主導権が若い世代へ変わりゆくその時代に、晴れやかに街を行き交った当時のファッションをお楽しみください。

特別展「花のお江戸ライフ —浮世絵にみる江戸っ子スタイル—

2023年7月8日(土)～8月27日(日)

開館時間 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

休館日 月曜日、7月18日 (ただし7月17日は開館)

観覧料 一般 1,000(800)円

65歳以上・大学生 500(400)円

高校生以下無料

- ※ 神戸市内在住の65歳以上の方は無料です。
- ※ カッコ内は有料入館者30名以上の割引料金です。
- ※ 神戸ゆかりの美術館、小磯記念美術館の当日入館券(半券)をお持ちの方は割引が受けられます。

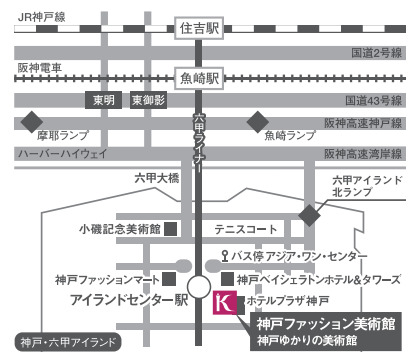
主催 神戸ファッション美術館、神戸新聞社、毎日新聞社
 後援 サンテレビジョン、ラジオ関西
 展示協力 大阪樟蔭女子大学

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2-9-1
<https://www.fashionmuseum.jp>

お問い合わせ(広報担当)

TEL: 078-858-0050

FAX: 078-858-0058

Email: press@fashionmuseum.jp

アクセス

▶ 電車ご利用の場合

JR「住吉駅」・阪神「魚崎駅」で六甲ライナーに乗換、
「アイランドセンター駅」下車、南東徒歩3分

▶ お車ご利用の場合

阪神高速神戸線「摩耶」・「魚崎」ランプから約10分
 阪神高速湾岸線「六甲アイランド北」ランプから約2分
 三宮からハーバーハイウェイ経由約15分

※ 当館地下の神戸ファッションプラザ駐車場のご利用が便利です
 (利用料金: 20分100円・1日最大550円)